

3Dプリントの造形精度向上

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター、
秋田県産業技術センター、
兵庫県立工業技術センター、
山梨県産業技術センター

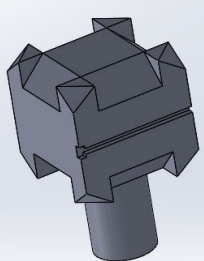
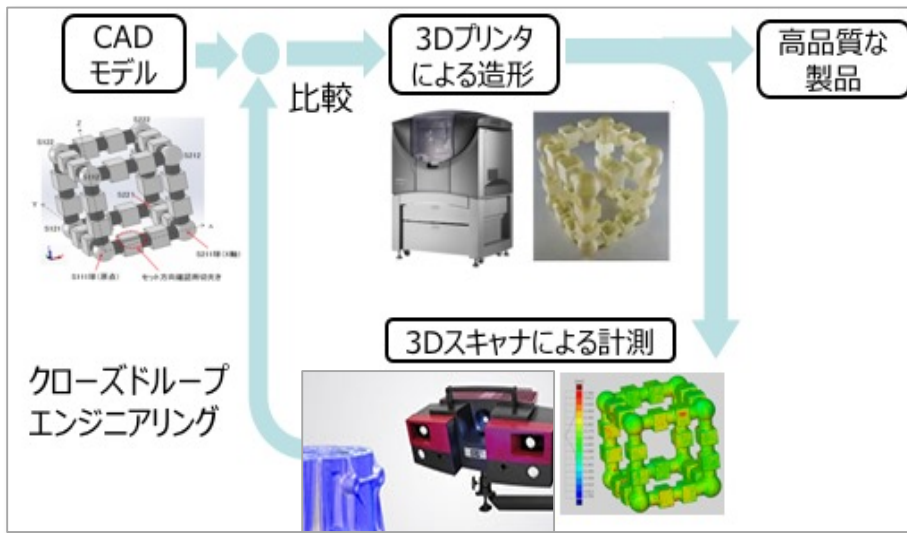
授与の理由

- ・形状計測研究会（45公設試が参画）の活動として、4機関が中心となり、3Dプリンタの高精度造形手法の開発を行った。参加機関内で造形ノウハウを共有し、計測と造形のフィードバックループの手法開発と検証方法の検討を進めた。
- ・得られた知見を地域企業に展開し、平成28年度は共同研究・受託研究61件、依頼試験・機器利用1126件、技術相談・技術支援1791件、セミナー・講演会70件の実績を挙げた。

活動内容

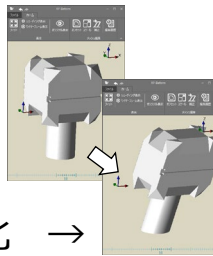
高精度3Dプリント手法の開発

- ・3Dプリンタの造形精度を評価するゲージを開発
- ・光学式形状測定機などを用いて、3Dプリンタで造形したゲージの形状を評価
- ・ゲージ形状から3Dプリンタの誤差を算出
- ・3D設計データを補正し、高精度造形を実現
- ・参加機関の多種多様なプリンタで、手法の有効性を検証



← 中小企業も実用できる簡易評価手法も開発

3Dデータ変形ソフトウェアを開発し市販化 → RP-Deform (株)アルモニコス



公設研をものづくりのハブに

- ・全国を4地域に分け、幹事機関を中心に自律的な取り組み
- ・地域内連携体制を強化
- ・公設研間の協力体制を構築し、地域産業に活かせる技術情報を共有



連携活動の継続

- ・プロジェクト終了後も、2019年度より、近畿経済産業局委託事業「3D積層造形によるモノづくり革新拠点化構想」(Kansai-3D実用化プロジェクト)に参画して、企業向けセミナーを開催するなど、活動を続けているほか、産技連活動を中心として開発と連携を継続している。



← Kansai-3Dプロジェクト

企業向けセミナーの開催 →

